

2016.08.26

再びスイスを訪ねて (Part 3)

7月9日(土)

■長い雪溪もツボ足で

4時、階段下に1つしかないトイレに行ったが、5時半に起きたときは石段を下りて外のトイレ。薄いピンクの空が山を包み、東の雲の上縁がオレンジ色に輝く。綺麗な顔の太陽は見られなかったが、時と共に陽光は雲を追い払ってベルナー・オーバーランドの山々を美しく見せてくれた。

眼前に黒々と構えたジーマリホルンの左に一寸雲を棚引かせた双耳峰シュレックホルン、右にはベルナー・オーバーランドの最高峰フィンスターアールホルン Finsteraarrhorn 4273m (黒い鷲)の鋭い切っ先が天を突く姿は素晴らしい。

裏手のファウルホルン頂上に登ってみた。スイス国旗が高く風にはためく。スイスの人たちはとにかく旗が好きだ。国旗はもちろん州、市、町、村、その他様々な旗があって、これで共同意識、団結心を高めるのだろう。

室内に入ったら途端にメガネが曇って真っ白、やはり外は相当の冷え込みのようだ。

朝食は山小屋らしく簡素なコンチネンタルスタイル、パンにバタージャム、珈琲、ココアの他にシリアル食品のミューズリーがあって、これにミルクをかけて食べた。

ところで、このミューズリーがスイス生まれとは知らなかった。Muesli はシチューや粥を意味するドイツ語 Mues に縮小辞 li が付いた言葉だが、1900 年ごろ療養には生の野菜や果物が必須と考えたスイス人医師ビルヒャー・ベンナーが山岳放牧の牧童の伝統的食事にヒントを得て、自身の経営するサナトリウムの患者に与えたのが始まりで、1960 年代欧米に於ける健康食品やベジタリアニズムへの関心の高まりとともに現在の形(日本ではグラノーラ等)に普及したものらしい。

今日はシーニゲプラッテ Schynige Platte Station 1967m に向かって長丁場の歩きだが、雪が多く通行が困難な場合にはフィルストへの引き返しもあり得るというから、覚悟して掛からねばならない。

8 時丁度ファウルホルン出発。急な下りの後右折して伸びやかな稜線に行く。幸い天気は上々、左手は白銀のベルナーオーバーランドの山並みが連なり、右手に遠くブリエンツ湖、手前に特異な山容のシュローブホルン Schroabhorn 2374m がよっきり顔を出している。

今歩いて来た道はと振り返ると逆光の中にファウルホルンが黒々と浮かんでいた。

やはり予想された長い雪溪はあった。初めはお椀を伏せたような丘陵を超えて行くもの、次は長い斜面をトラバースするもので、幸い何れも新雪ではなく深く潜ることはないので何とかツボ足でこなせたが、用心して雪を蹴込みながらゆっくり歩く。

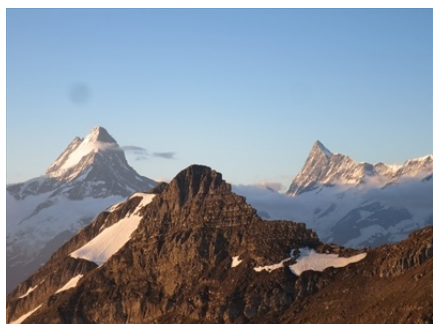
雪溪を過ぎると右崖下にメンドレネン小屋 Berghaus Männndlenen 2344m、狭い急な下りを降りて小屋の前に出る。このコース唯一の小屋なのだが、先が長いので横目に見て寄らずに進む。

道は大きく北東に折れてガレ石の溝道、下には長く雪溪が伸び、右上に見えているファウルホルンも随分遠くなった。

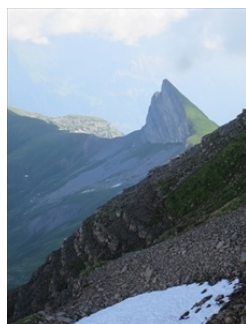
この道を 600m 程歩いて下方にセギスタール湖 Sägistalsee 1936m が見える地点、ゴッタルト Gotthard 2276m で再び方向転換、インドリセギッサ Indrisägissa 2462m の裾を回って西へ向かう。

セーギス谷 Sägistal を右に眺めながらインドリセギッサとウスリセギッサ Ussrisägissa 2425m

の北斜面をトラバースしながら歩くがこの区間が実に長い。ウスリセギッサの岩肌の物凄い褶曲を真近に見ると地球のエネルギーの底知れぬ力を感じる。



ジーマホルンの左右に
シュレックホルンとフィンスターアルホルン



変わった山容の
シュローブホルン



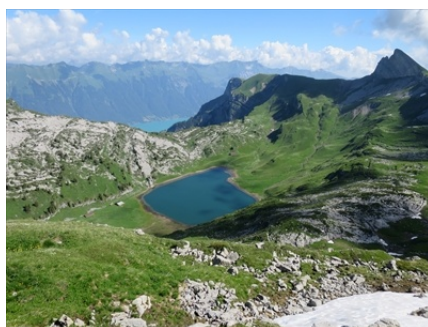
長い雪溪トラバース

エッグという緩い峠 Egg2126m を越えてウスリセギッサの山が後ろになると草地が増えてきた。志波さんがこれは珍しいと薄紫の花の群落を指し示す。グローブラリア Globularia、愛称「目玉のオヤジ」で此処以外で見ることのない花だった。

ロウヒャーホルン Loucherhorn2231m の南東尾根を乗っ越したあたり Güwtürli2028m から北へ大きく斜面を巻いて再び西へ向かうと、やっと2つの山塊が見えてきた。右がオーバーベルクホルン Oberberghorn2069m、左がシーニゲプラッテ山 Schynigeplatte2100m でその左山裾にある小さな黄色い点（テントの色）がシーニゲプラッテ駅 1967m だ。



メンドレネン小屋



セギスタール湖



凄い岩の褶曲

■転倒左肘打撲、手のひら裂傷

何時ものことながら、何故か目的地が見えてからが遠い。気も緩んで皆から遅れた上に大転倒を起こした。左肘打撲、手のひら裂傷、暫くは起き上がれない。大丈夫と断ったのに遂に志波さんにリュックを渡す羽目になってしまった、なんとも情けない。

何でこんな意地悪なところかと思うくらいキツイ坂の上にあるシーニゲプラッテ駅に着くと、皆もうソフトクリームをなめたりして寛いでいた。

勿論遅ればせながら皆に倣ったが、それよりも此れは美味しいよと桑原さんが奨めてくれた山のミルク Bergmilch に感激して改めて1本買いに走った。

空にはのんびりとパラグライダーが舞っている。

駅の上には1929年開園の有名な高山植物園 Alpen-garten があるのだが、寄る余裕はなく14時

21 分発の電車でヴィルダースヴィル経由、インターラーケン・オストへ向かう。

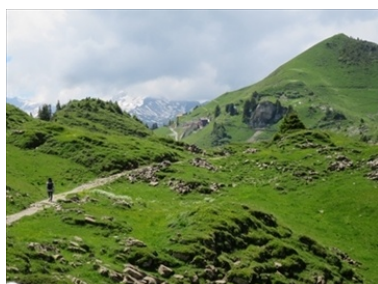
15 時 25 分インターラーケン・オスト着。駅前の COOP でオーガニックジュースを買った。

いよいよこれからベルナー・オーバーランドの裏側（南側）、ローヌ谷へと向かう。

16 時インターラーケン・オスト発、シュピーツ Spiez、ブリーク Brig、と乗り継いでベッテン Betten 814m 17 時 39 分着、17 時 55 分発のロープウェイは雪解けの濁流ローヌ川、教会の尖塔の上を越えて 10 分でベットマーアルプ Bettmeralp 1950m に到着した。



グロブラア（目玉のおやじ）



遠くにシーニゲプラッテ



シーニゲプラッテ



山のミルク

一昨日、グリンデルヴァルトから発送したスーツケースをホテルの電気自動車で運んでもらう。この山に点在する集落ではガソリン車は乗り入れ禁止、幅の広い道路がないため電気自動車も小型の必要最小限のものしかない感じだ。

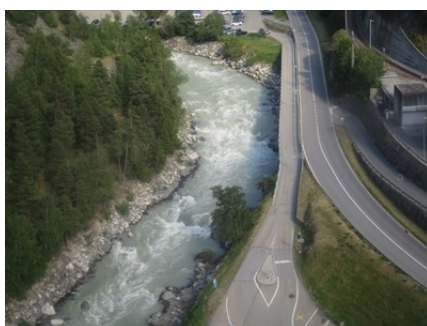
18 時 30 分、ホテル・アルプフリーデン Hotel Alpfrieden にチェックイン、今日から連泊なので初めてゆっくり洗濯も出来た。

夕食の初めは毎回ビールだが、クライネシャイデックとグローセシャイデックを訪れて以来注文はクライネかグロースと頼むようになっている。ワインはヴァリスの代表的赤ワイン・ドール Dole、AOC の 2012 年（48CHF）、料理はポタージュに始まってトッピングにオレンジ色のペースト（中身は不明）を敷きオリーブを散りばめたピッツアパイ、とステーキの豪華版だった。

部屋に帰って寝る準備をしていたら、志波さんが氷とバンドエイドを届けてくれた。手の平の出血は問題ないが、肘の打撲は内出血していて腫れている。これに氷を巻き付けて寝ることにする。



空にはパラグライダー



ローヌ川を越える



アルプフリーデンの電気自動車

7 月 10 日（日）

■ヨーロッパ最長最大のアレッチ氷河

5 時起き、肘の腫れも引いたのでバンドエイドにして初めて髭も剃った。朝食はコンチネンタルだがチーズの種類が多い、Aletschmutschli, BergKäse, Freiburger 他にも 3 種類くらいある。

中でもアレッチ地区の家庭に古くからあるアレッチムツリは味といい適当な硬さといい大変気に入って何とか手に入れたと思った。

今日はベットマーホルン Bettmerhorn 2647m へ上ってアレッチ氷河 Aletschgletscher を見ながらのトレッキング。

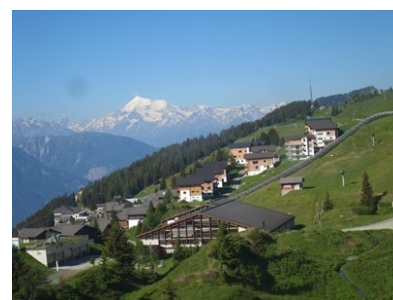
快晴の外へ出て南を見るとイタリア国境に連なる 4000m 級の山々が素晴らしい。山全体がスイス領内にある最高峰ドーム Dom 4545m、右奥にイタリアと両国にまたがり 4つの峰を持つスイス最高峰モンテローザ Monte Rosa 4634m、ツエルマツトから見る鋭峰と違って矩形のマッターホルン Matterhorn 4478m、その右に名のごとく白く輝くヴァイスホルン Weisshorn 4505m、これはおそらくスイスアルプス最高のグランドな眺望だろう。



ベットマーアルプの夕暮



エッグスホルンからの眺望



ヴァイスホルン遠景

ベットマー湖 Bettmersee の東南端にあるロープウェイ乗り場から 9 時発のゴンドラに乗って 10 分でベットマーホルン・ステーション 2647m に着く、我等は山頂へは向かわず、水平に左の崖を回りこんだ所でアレッチ氷河と対面した、ビューポイント・ベットマーグラートだ。

アレッチ氷河は北のユングフラウから南のローヌ川に至る全長 23.6km、最大幅 1.6km、面積 117.6 km² はヨーロッパ最長最大、中央部コンコルディアプラッツの氷厚 900m、180m～200m/年間移動を続ける大氷河で 2001 年登録の世界自然遺産だが 2007 年、ユングフラウ三山を含む 82400ha に範囲が拡張されている。

アレッチ氷河は左にオルメンホルン Olmenhorn 3314m、右にストラールホルン Strahlhorn 3027m に挟まれて大きく方向を変えて南へ繋がっているが、遙か上流を見ると僅かにトルークベルク Trugberg 3933m の白い頭を見ることができた。正面には鋭くアレッチホルン Aletschhorn 4195m が聳えている。

晴天のエッグスホルン Eggishorn 2869m 頂上からはユングフラウ・メンヒ・ユングフラウヨッホのスフィンクスまで見ることができるというが、この場所からは無理だった。

氷河の中央部に黒い 2つの筋が繋がっているが、これは上流で他の氷河が流れ込んだ時運び込まれたモレーン（堆石堤）、氷河の表面は無数のクレバスが皺となって刻まれ、所々に小さくブルーの水溜りが見られる。まさしくグレイシャーブルー（氷河の青）だ。

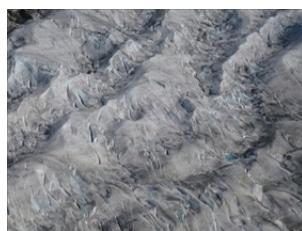
9 時 30 分、氷河上流へ向けてトレッキング開始、大きな岩の上を飛んだり雪溜まりを越えたり、左手の氷河と足元の両睨みで進む。こんな岩場にも黄色い綺麗な花が咲いていた。「氷河の髭」というのはニックネームだろうがもう少し可愛い呼び名にしてやれと思う。



アレッチ氷河



氷河の中にモレーン



クレバスと水溜り



氷河の髭

我等は山腹の道を歩いてきたが、氷河のレベル近くへ下りて RotiChumma2369m で下の道と合流する。

12 時 30 分、眼前にストラールホルンが迫りメージェレン湖 Märjelseen2302m に遮られて氷河沿いの道が閉ざされ右折したところで休憩、志波ガイドが全員に配ってくれたミディトマトが美味かった。

氷河を離れてエッグスホルンの山裾を行くと湿地帯になりワタスゲが咲いていたし、日本では見られない珍しい花シュピンウエブ・ハウスヴルツ（センペルウイウム属）も見ることができた。

メージェレンダムの手前にある小屋グレッチャーストウベ Gletscherstube2347m（氷河の部屋）で昼食をとる。

結構混んでいたし天気がいいので外のベンチで食事、牛肉スープにソーセージとパン、先があるのでアルコールはやめてミルクにした。

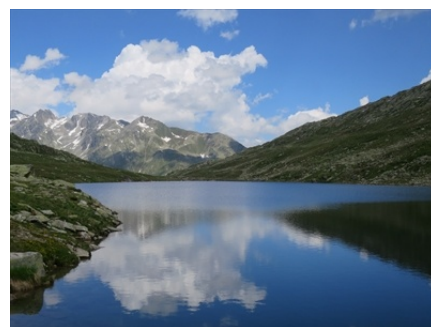
14 時 05 分出発、水運搬用に掘ったというエッグスホルンのトンネルをくぐる。距離は約 1300m、足元は暗く地表は水が流れているのでヘッドランプの出番、外気温 21℃に対してトンネル内は 14℃、15 分掛かって向こう側へ出た。正面の谷にフィッシャータールの集落、北の谷合にはフィッシャー氷河が見える。



旨いミディトマト



グレッチャーストウベ



メージェレンダム

うねうねとした山腹の道を歩き 15 時 30 分フィッシャーアルプ Fiescheralp2212m 到着。此处からベットマーアルプ迄電気自動車の便があるとの情報があったので、ロープウェイでエッグスホルンからのアレッチ氷河を見ようかと気持ちが揺れたが、雲が多くなって良い眺めは期待できないのと、電気自動車便も今はない、ベットマーアルプまであと 1 時間半歩くしかないとあって再びウォーキング開始、こうなるとあまりファイトが湧かない。

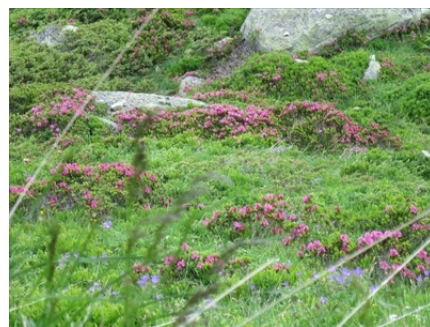
途中フーリヒュッテ Furrihütte に寄ってトイレを借りたりしたので、又皆から遅れてしまったがこの道にアルプスの 3 大名花アルペンローゼが多かったのは慰めだった。



エッグスホルンのトンネル



フィッシャーアルプ



アルペンローゼ

近道の細いわき道からベットマー湖を見下ろしながら集落に入って 16 時 50 分、ホテル・アルプフリーデン着、やれやれと部屋に入ろうとしたら鍵が見つからない。フロントの手を煩わして入室したらなんと鍵はテーブルの上に鎮座していた。こんな失敗をするのは多少疲れが出てきたのだろうか。

頭も洗ってさっぱりしたところで夕食、ビールはグロース派とクライネ派が確定、ワインはヴァリス 2014 年 AOC の Positivo、特別のフレーバーがあるとかで 51CHF とは結構な値段、料理はサラダ、海老の和え物、スープ、それに一度はお目にかかりたいと思っていたチューリッヒ料理のゲシュネツエルテス Geschnetzeltes、仔牛の薄切り肉のクリーム煮に、砕いたポテトの両面焼きレシュティ Rösti を添えてある、なかなかのご馳走だった。

明日からの予定について志波さんからの話、「当初予定のイタリア領マクニャーガ Macugnaga 1195m に宿泊、翌日モンテモロ峠 Monte Moro Pass 2868m へ登ってサースフェー Saas-Fee 1800m に降りるコースは、下りのガレ場に雪が多く危険と考えられるので、予定を変更してサースフェーに直行後、改めて行き先を相談したい」とのこと。

危険の情報がありながら強行することは勿論できないが、マクニャーガからモンテローザの南面を真近に見ること、モンテモロ峠に建つ黄金のマリア像を見ること、それに小学校時代世界最長のトンネルと教えられたシンプロントンネル Simplontunnel を通過出来なくなるのが一寸残念だったがやむを得ない。

(Part 4 に続く…)